

事業名	地域でつながる子育て推進事業		
団体名	川口イベントサークル	シェイクハンズ	代表者 川角 寛之

### 事業概要

福山市を中心に、主にロボットプログラミング体験や地域交流（まちカフェ）を通じて、子育て家庭の交流を促進し、身近な地域での仲間づくりを図るとともに、活動への参加者が地域への関心を高め、若い世代が主体的にまちづくりに関わるきっかけを作る。

### 事業の背景・ねらい

福山市川口町（川口学区）の子ども会役員活動を通じて、近年加入率が軒並み減少傾向にある要因に「マンネリ化した活動」「役員負担」があることに気づき、地域（特に子育て世代）に魅力的な活動を行い、そして役員との伴走型サポートをしていくことで、本来あるべき地域にとって必要な「繋がり」を再構築する活動を行っている。

特に2輪ロボットとタブレットを使ったプログラミング体験会は、2020年度から変わる教育課程において保護者や子どもの関心が非常に高く、近い未来に必要なプログラミング教育を提供しながら、行事を通して人と人の繋がりを促進し、地域の活性化を図る。

### 事業内容

#### ・プログラミング体験会の実施

不定期に要望があった地域（子ども会・PTAなど）や行政・民間企業からの依頼で、授業形式や体験形式など、それぞれにあった内容・参加人数で実施。なお、体験に必要なロボット・タブレットは全てシェイクハンズが準備している。

#### ・子育て家庭を対象にしたまちカフェ等の企画運営

川口学区を中心に、保護者同士が気兼ねなく子育てにまつわることや、地域の情報交換などの交流の場を年3回ほど提供している。

#### ・地域行事等のサポート（主に子ども会）

川口学区子ども会本部役員の経験を活かして、行事の運営サポートを行っており、役員負担の軽減につながる活動となっている。

#### ・川口学区の魅力を発信（ホームページ・フェイスブック）

ホームページではイベントの情報や活動報告、メディア（広報）のお知らせなどを随時更新しているほか、活動理念やメンバー紹介、問合せの窓口機能にもなっている。

フェイスブックではリアルタイムでイベントなどの活動状況を発信している。

#### ・ミーティング（毎月第3金曜日に実施）

主に川口公民館で上記日程にて直近の活動に関する打合せや、年度始めに総会を行い、会計報告や活動報告、活動計画などを話し合っている。



プログラミング体験教室



川口まちカフェ



定期総会

## 成果

主な活動であるプログラミング体験会では、福山市の子ども会・PTAで3回、行政の行事（こどもフェスティバル）、民間NPO法人と6回、民間企業と4回、様々な規模で体験会を開催。参加人数は多いときで子ども60人、大人40人ほどの規模になり、HPやSNSなどを通じて活動の認知が広まるとともに、「プログラミング教育+イベント」の目新しさで高い関心を集めることができた。

活動拠点の川口学区では、子ども会本部役員の運営サポートを継続し、主に人気を集めるスポーツ雪合戦は、子どもたちだけでなく、多くの保護者とスポーツを通して交流をふかめることができた。

HPやSNSでの情報発信によって活動を広く認知してもらうことができ、イベントの大半はこれらのツールを通じての依頼であった。

スタートアップ事業補助金で購入したスタッフジャンパーやTシャツは、「まちサポ プロボノ1DAYチャレンジ」活動でプロボノワーカーと協働で制作したロゴマークをプリントしており、これらの活動で着用することで、広く団体の活動をPRすることができた。

## 課題

活動回数が多くなることにより、会員同士での日程調整が多少難しくなる 때가あった。福山市全体での認知は非常に高くなったが、地元川口学区では認知度はさほど比例せず、保護者同士の交流会である「川口まちカフェ」では参加者が10人を越えることはなく伸び悩んだ。

## 今後の活動内容

引き続き要望の多いプログラミング体験イベントが中心となる活動になるが、HPやSNSを継続的に活用していくほか、5Gの時代にあわせた動画制作やライブ発信などを積極的に取り入れて、新しい地域のつながり方に挑戦していく予定。

また、地元川口でのイベントや支援を通じて活動での利益を還元していく。

事業名	草戸千軒ビレッジ探訪事業		
団体名	草戸千軒ビレッジ	代表者	三谷 干城

### 事業概要

中世鎌倉室町時代の幻の町と言われた草戸千軒は、最近の小中学校の教科書にも掲載され、全国的に注目されている。福山市に住む人はもちろん県外の人たちに、新しい学術資料に基づいた、草戸千軒に関する正しい知識を身に付け、また福山のルーツである草戸千軒に親しみ、「福山の顔」として草戸千軒を再認識してもらう活動を行う事業である。

### 事業の背景・ねらい

草戸千軒は昭和時代に大掛かりな発掘が行われ、出土品は広島県立歴史博物館に保管展示されている。発掘が終わり平成時代に入ると次第に草戸千軒の名前は福山市民の記憶から消えていき、草戸千軒を彷彿させる活動もなくなった。そんな折、市民団体の「草戸千軒ビレッジ」を立ち上げ、地元福山の人も含め全国の人に草戸千軒に注目してもらい、同時に福山の人には、「福山の自慢」として草戸千軒を認識してもらうため、各種活動を開始した。

### 事業内容

- 草戸千軒ビレッジ案内パンフレット作成 1,000部 11月8日完了【写真1】
- 草戸千軒学習&散策
  - ① 草戸千軒研究発表会（7月21日 草戸の郷 15人）【写真2】  
「草戸千軒の実像を探る」 備陽史探訪の会 幹事 瀬良泰三さん
  - ② 草戸千軒ビレッジ散策と講演会（11月24日 草戸の郷 20人）【写真3】  
ガイド 三谷干城さん  
講演 「草戸の歴史と草戸千軒町発掘の意義」 備陽史探訪の会 会長 田口義之さん
- フィールドワークなど
  - ①スタンプラリー実施に係る事前学習（光小学校六年生 約60人）【写真4】
  - ②草戸稲荷節分祭でスタンプラリー実施（2月3日 約160人）【写真5】
- 平成30年7月豪雨関連
  - ①草戸・川西地区被災を記憶にとどめるため、草戸稲荷の被災状況及び被災品を保管展示する「平成30年7月豪雨被害資料室」を「草戸の郷」の一室に開設。【写真6】
- 広報活動
  - ①草戸千軒ビレッジの活動を読売新聞（ひろしま県民情報）が特集掲載（3月20日）
  - ②広報「ふくやま」に掲載（1月号）



写真1 草戸千軒ビレッジ案内パンフレット



写真2 研究発表会の様子





写真3 散策の様子



写真4 事前学習の様子



写真5 スタンプラリーの様子



写真6 平成30年7月豪雨被害資料室

## 成 果

- ・「草戸千軒ビレッジ案内パンフレット」を1,000部作成し、ガイドの際にこれをテキストとして案内している。そのため、参加者に分かり易いと好評である。
- ・平成30年7月豪雨被害の資料室を開設し、被災状況や被災品を展示し紹介。本年8月には資料室の貴重な被災写真を地元の光小学校に貸し出し、資料室に来なくても、学校で被災の生々しい実態を勉強してもらっている。
- ・草戸千軒ビレッジのホームページ（HP）を開設し、草戸千軒ビレッジの広報活動をさらに展開することができた。

HPのURL ; <https://kusadosengen-vil.jimdofree.com/>

- ・姉妹会である明王院を愛する会と共同で活動을続け、明王院を愛する会のメールマガジンに当団体のHPをリンクさせることで、草戸千軒ビレッジの情報を幅広く発信することができた。

## 課 題

助成がなければ活動資金がない現状のなか、助成頼みで運営していること。

2019年度は草戸千軒の土を使った陶芸教室を定期的に関開くため、他の助成を申請したが採択されなかったため、学区の行事として1回のみ実施した。

## 今後の活動内容

「明王院を愛する会」と連携し、活動を継続する予定。今後は紙芝居「草戸千軒ものがたり」の制作やCD「草戸千軒ストーリー」のDVD化を計画している。

事業名	川口学区におけるこども食堂運営		
団体名	ドリームファーム	代表者	畑田 夢

### 事業概要

毎月実施の家庭菜園セミナーで、種まきから収穫までの一連の作業を子どもたちと実施し、自然本来の姿に近い自然農法（無農薬無肥料）による食育を活動の主体とする。収穫物は、川口学区に開設するこども食堂の食材として活用する。

### 目的

日本は、古来より農業を主体とした地域の繋がりが主であったが、近代化とともに薄れ、地域コミュニティの希薄さがますます進行しているため、三世代が食・農業を通してコミュニケーションを図る場にするとともに、特に次世代を担う子どもたちが、生命の尊さや食への感謝、そして高齢者に対する尊敬の気持ちを持つことをめざす。

### 事業内容

- ・固定種・在来種と呼ばれる種から発芽させ、収穫・種取りまでを行う菜園活動を月1回～2回、また、収穫した農作物を食材として活用する料理教室を2ヵ月に1回開催。
- ・子どもたちの田植えや稲刈りなどの体験イベントを実施。
- ・家庭菜園セミナーの開催（月1～2回）
- ・川口学区こども食堂の実施（3月24日）



家庭菜園セミナーの様子



稲刈りの様子

## 成 果

- ・子ども達を交えての自然農法活動が地域の方に認知されつつあると同時に、体験イベント等を通して高齢者の方々とも交流ができるようになった。
- ・家庭菜園セミナーに参加した3組の参加者が、自宅で家庭菜園を始めるようになった。
- ・川口学区こども食堂に関しては、平成30年7月豪雨災害により秋冬野菜の生産が大幅に遅れたため、収穫野菜を使った実施が予定していた時期にできなかったが、2019年3月に収穫したもち米を使用し、開催することができた。

## 課 題

- ・現在は団体としての収入がなく、ボランティアによる団体運営となっているため、収入事業を実施し、継続的な事業活動をめざす必要がある。
- ・農業体験からこども食堂運営までの取組を構築していくため、地域の各種団体等との繋がりがづくりが課題である。

## 今後の活動内容

- ・月1回の家庭菜園セミナーの開催
- ・2カ月に1回の料理教室（収穫した米・野菜）  
（10月：スイートポテト作り，12月：そば打ち体験，2月：味噌作り）
- ・農医連携をめざした食育セミナーの実施（9月・来年3月 半年に1回実施予定）
- ・川口学区こども食堂の継続開催に向けての組織づくり
- ・新たな場所（福山市神辺町）で農業体験イベント（田植え 稲刈り）を実施予定。



稲刈りの様子



収穫した米でおむすび作り



事業名	紙芝居プロジェクト		
団体名	ねこみみ福山	代表者	池内 雅恵

### 事業概要

中学生ボランティアと障がいのある子どもたちと一緒に紙芝居を作成し、市内の公立図書館・公立保育所・幼稚園を訪問し読み聞かせを行うとともに、寄贈し活用してもらうことで、動物愛護の精神を普及・啓発していく。

### 事業の背景・ねらい

捨てられたペットは餌の取り方を知らず、交通事故、病気等で寿命が短い。  
 ペットを飼い始めたら、責任をもって最後まで飼わなくてはいけないことを伝えるため、子どもたちと一緒に、動物愛護の内容の紙芝居を作成し、読み聞かせを行っていく。

### 事業内容



紙芝居作成途中の打ち合わせの様子



紙芝居原画



完成した紙芝居表紙

## 成 果

紙芝居は、中学生がストーリーと絵を作成したことで、子ども目線での受け入れられやすい物語の完成となった。

また、表紙の作成に関わった障がいのある子どもたちが、完成した紙芝居を見たり、新聞記者の取材を受けたことによって、達成感と自信を得られたと聞いた。

完成した紙芝居を市内の公立図書館・公立保育所・幼稚園等に寄贈すると、とても好評で、新聞・フリーペーパー・ラジオ等でも取り上げられ、広く関心を持ってもらえたと感じた。

## 課 題

「ばら祭」に参加して紙芝居の読み聞かせを行ったが、屋外のイベントでは、紙芝居を読み聞かせても、周囲の音楽で声が聞こえなくなってしまうため、屋内での実施に変更する必要がある。

図書館の読み聞かせボランティアグループに、紙芝居を活用してもらうことを検討したい。

## 今後の活動内容

継続して行う活動として、「紙芝居の読み聞かせ」「猫ボランティア養成講座」のほかに今年度からは、市内の介護事業所・障がい者の福祉施設で「高齢者・障がい者の猫の多頭飼育崩壊数調査」を行っていく。

これは、飼い主が飼える頭数以上の猫を飼育することで世話しきれない状態に陥り、猫が繁殖し続ける状態となっている家庭数を調査するもの。悪臭やえさの放置など衛生面からの相談に対応するために、引き続き関係機関と連携し、調査を行っていきたい。



猫の暮らす地域での清掃活動



紙芝居作成の様子